

第27回テーマ:六甲山の苔



みんなで地面を見つめる

講演内容

- ①苔の多様さとその美しさ
- ②生きてゆく上での工夫
- ③六甲山の苔を実際に見てみる

実施日：平成17年6月18日(土)
午後1時～3時30分

場所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム
記念碑台周辺



講師：秋山 弘之さん
あきやま ひろゆき

プロフィール

1956年生まれ、大阪府出身。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。平成6年より兵庫県立人と自然の博物館主任研究員。専門分野は苔植物の分類学。

コアジサイが可憐な花をつけていた

梅雨入りして心配だった天気も当日は快晴。散策路のところどころにはコアジサイが小さな花を開いていました。そのかわいらしい姿は午前中の清掃ボランティア活動に参加した10名の目を和ませてくれました。

自然保護センターの改修も進んでおり、建物の外装、階段や手すりなどが変わって全体的にウディ調になっていました。



コアジサイ



スギゴケ

コケの分類を知った

今回は県立人と自然の博物館の主任研究員、秋山弘之さんに講演していただきました。秋山さんはコケ植物の研究がご専門です。子供の頃からの面白そうなものを拾い集める癖と登山の趣味が結びついて、植物採集や分類の研究がライフワークになったとのこと。

コケといえば、盆栽や庭園などで観賞するものふだんはあまり気に留めることのない目立たない存在です。実は様々な種類や生態があることを知りました。コケでないコケや変わった生態など、短時間でたくさんの種類を紹介いただきました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

ほんの小一時間で10種類以上を発見

講演での知識をもとに野外観察をしました。自然保護センターの周りや記念碑台の広場、駐車場の石垣、散策道等を見て回りました。センターからほんの数メートルの範囲に10種類以上のコケを発見。花などを見る視点の数10センチ下にはコケの世界が広がっていました。土の上、木の幹、コンクリートの壁など、ルーペを使ってじっくり見つめたり触ったりして楽しみました。



自然保護センターの前でコケを観察

もっと自然に目を向けてみよう

今回のセミナーでは、視界に入っていないものたくさんあることを教えていただきました。小さな自然に目を凝らすルーペの世界はとても面白いものです。庭の隅や道端など身近なところにひっそりと息づき、安らぎを与えてくれているコケの魅力を改めて見直すことができました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金



テーマ：六甲山の苔



第27回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00~13:10
2. 講演：13:10~14:30
3. 現地観察：14:30~15:20
4. 質疑応答：15:20~15:40

講演

- ①苔の多様さとその美しさ
- ②生きてゆく上での工夫
- ③六甲山の苔を実際に見てみる



苔に興味あり！

講演のあいさつ(秋山 弘之さん)

人と自然の博物館ではコケの研究をしています。コケは人気がないので「ひとはくセミナー」ではキノコも担当しています。ぜひ参加してください。



秋山 弘之さん

講演内容

前半はスライドを使ってコケについての誤解や意外な知識をわかりやすく説明していただきました。後半は六甲山にどんなコケがあるのかを確かめるために野外観察に出かけました。

1. コケ植物とは

■コケ=コケ植物ではない

口でいう「コケ」と植物学的な「コケ」は違う。コケは茎と葉がはっきりしており、不定形のコケはない。

地衣類もコケと間違えられる。ウメノキゴケのように「コケ」の名がついた地衣類もある。地衣類は大体が白っぽい色で、ペンキのような色をしたものが多い。コケは光合成をするためのクロロフィルがあるので緑色である。

シダにも間違えられることもある。シダには根があるが、コケには根はない。根がないのでコケはしっかりと地面に定着しない。

■木に生える毛のようなもの？

コケという名前は、木に生える毛のようなもの「木毛(モケ)」に由来する。草木で最も小さいもの「小毛(コケ)」という説もある。コケは大和言葉で、中国の漢字から苔や蘿の字をあてた。

■豊かなコケの世界

コケ植物は世界に約18000種あり、日本には1667種ある。500種のシダ植物より多く、さらに毎年1種は増えている。日本はコケの研究が盛んで、戦後に優秀な研究者を多く輩出した。

蘚類 1030種	苔類 620種
・ミスゴケ類	・コマチゴケ類
・クロゴケ類	・ウロコゴケ類
・ナンジャモンジャゴケ類	・ゼニゴケ類
・マゴケ類	
[立つ] スギゴケの仲間	ツゴケ類 17種
[這う] ハイゴケ	

日本の苔の分類表

ボルネオ島のキナバル山周辺でコケ植物の調査を行った。1mほどの大きさになるナンヨウスギゴケが見られるなどコケ植物が豊富である。

ちょっと脱線~キナバル山~

キナバル山はマレーシアのボルネオ島サバ州に位置する。標高は4100mで3300mの地点に山小屋がある。大人も子供も登山を楽しむことができ1900mから3300mまで半日で登り、夜中に起きて頂上まで登る。ご来光を見た後は1900mまで一気に降りる。旅費は沖縄へ行くよりも安い。皆さんもどうぞ。

2. コケの生態と利用

■コケが生きていく工夫

マルダイゴケ：ギリシャ壺のような形。壺の細胞からハエを引き寄せると匂いをだす。

パラソルゴケ：ハエが止まれるようにパラソル状の形をしている。コケに寄ってきたハエに胞子が付き、そのままハエが別の糞に飛んでいってそこで発芽し増えていく。

イチョウウキゴケ：イチョウの形をしている。水に浮かび、倍々に増える。

ホンモンジゴケ：銅葺き屋根の下の雨水がかかる場所に生える。銅は生物には毒なので普通は雑草も生えない。京都の西芳寺(苔寺)などで見ることができる。



マルダイゴケ



パラソルゴケ

■苔の利用

コケは食料としては全く利用されていない。スギゴケをすりつぶすと吐きそうな臭いがする。コケは虫も食べない。食料にしないので苔庭以外では人との関わりは少ない。

コケを住処として用いる生物がいる。ゲンジボタルは水辺のコケに産卵し、オオルリやカワガラスはコケだけを使って巣を作る。コケに抗菌作用があるためといわれている。

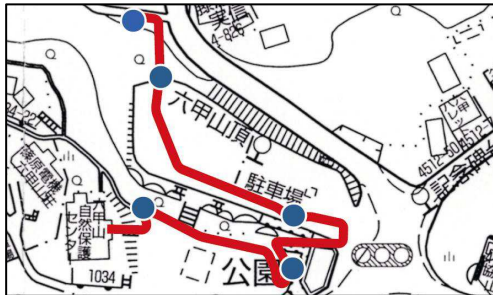


軒下のオオルリの巣

3. 六甲山の苔を実際に見てみる

■観察コース

講演の後、自然保護センター周辺で現地観察。センター前の広場、記念碑台の駐車場、周辺の散策路を回って約1時間で戻った。



野外観察の経路

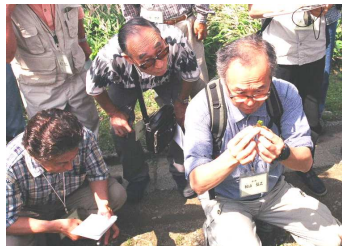
■生命力にあふれるコケ

記念碑台駐車場の石垣にハマキゴケを発見。根がないので土のないところも平気である。コンクリートが大好き。

コケは体が小さいので茎や根に水分を貯められない。乾いたときには休眠する性質があり、体内の水分が5%以下になっても死なずに、コンクリートが朝露や雨で濡れるのをじっと待っている。



ハマキゴケ



じっと見つめて観察

＜観察したコケの種類＞

・ツヤゴケ・コモチイトゴケ・タチゴケ・ヤノウエノアカゴケ・スナゴケ・ネジクチゴケ
ハマキゴケ・マツゲゴケ(地衣類)・コツボゴケ・オオサナダゴケモドキ など

■六甲山で知られている貴重な苔

ハリミズゴケ(甲山湿原): どうやら消えてしまったらしい。アオゴケ(裏六甲紅葉谷): 一度見ただけで再発見されていない。スギゴケ(山頂付近): 数十年前に一度見ただけ。

質疑応答・感想など

君が代の「コケのむすまで」って? : 「悠久の間」という意。日本でのコケのイメージは「静」「悠久」そして「死」など。「苔の下」「苔の褥(しとね)」「苔の庵」などコケにまつわる言葉も多い。

ミズゴケを輸入している業者が病気になっていると聞かざる? : スポロトリウム病という。ミズゴケに付着している真菌が原因。命に別状はないがひどくただれる。ミズゴケに触ったら手を洗うようにすること。

参加の感想 松下 猛さん



苔のボーダーラインは素人には難しい。4年前から植物の名前を覚えだしたのだが、ダボハゼ方式で名前を調べ、身近の方に尋ね、記憶に留める様にしている。樹木、山野草から少し離れイネ科、カヤツリグサ科、シダ、コケとなると興味を示す人が少なく殆ど回答も返って来ない上に図鑑や写真集で判定するのも難しい。今日初めて苔とは蘚苔植物の総称でスギゴケで代表される蘚類1030種、ゼニゴケの仲間の苔類が620種、これにツノゴケ類17種が日本にあると識った。野外でも12種類の苔と地衣類を教えて戴いたが小さい為なのかなかなかその特長が握みにくい。根気が続くとよいが!

ルーペの世界を知った(事務局)

コケは食べられないから人の興味を惹かない。何気なく見落としているものへの関心を導いてくれた。今回をきっかけに小さな自然に目を凝らしたい。

◆参考・配布資料など

- ・スライド、サブテキスト
- ・ひとくセミナーガイド夏号
- ・『苔の話』秋山弘之著
中公新書(780円+税)

～ひとくセミナーのご案内～

- ・秋のキノコ探検隊1: 10月1日
- ・秋のキノコ探検隊2: 10月2日

詳細は下記までお問い合わせ下さい。



『苔の話』

兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL: 079-559-2003 FAX: 079-559-2019
URL: http://hitohaku.jp/ Mail: root@hitohaku.jp

◆参加者の感想 ～アンケートより～

- ・苔をテーマにした講演等が少なかったので、とても関心があった。全体像がつかめた。
- ・『苔の話』を読んでセミナーを受けて、これをきっかけに関心を持つことにします。
- ・もう少し野外観察の時間がほしかった。
- ・注意力を持って見られる観察力への道筋を教えてくださいました。

◆参加者: 28名(順不同・敬称略)

秋山 弘之	八木 浄	村上 定広	大谷安規永
久保 順一	青木 孝子	泉 美代子	松下 猛
霜田 泰功	浅井 審一	小坂 忠之	山田 良雄
山本 悟而	前田 和子	遠井 方子	堂馬 佑太
垣井 清澄	島崎 渉	石光 暁子	岩井百合子
長尾 雅人	澤田 中	北山健一郎	堂馬 英二
米村 邦稔	小野 律子	中川貴美子	藤井宏一郎